俄羅斯十二律譜

911.3
八
貴外

再考

ぬくみまとことゝいまの音の梅の花　昌左
鶯のなく独足きる小路の朝　徐全
柱まの中まさく山守の家　味兒
春雨ハ孔はや馬きみんなう　龍々
くもる中まて見るつきの山くれ　百枝
水鶏や月のつやま見え　原窩
秋一ノやーすいしれ盛一ぱい　小海
辞めしえ水はと出り深さ止む出　了央
廉しかまつりて千年かゝり　徐窩
庵露ハ空ぬく見るかゝる　旅窩
帆こ風のきゝ良かれ　花鴫
瞬くや高みえし　蘭風
追くよまくとつとゝつ　旅雲
帰る稲　岑窩

十二律貞外序

東武の安子某人既に冥東十二律を
撰びおもり瀑梓して序を予扉を叩
き定西海の奇を標し
庵ならず旅のさまをし
わけあしらひ来て
幸ひ乃朝日のかゝる扉よ枝をとゞめ

如此の万の奇ものさまざまに出たる
中に祝ぎ居赤ものの軍玉つきのみな
かの実生れ松原隠の浦名を実くたれ
たるなるに燈台の本歌の藤の嶽を九
年見事時彼津の妻をむかえ来の
芽ぶく檜の原の初日の影西にまさる
笠置ひ詩たなし小夫字佐香
接の獨の離れ高砂の御ちん弱る隈

赤久沐ムかく出ず拙く才知の士と
交ぶ事を好ぶ詩の自ものそ出さくなり
ぶし赤帰乃接沐赤阿ぶ知れし
百ものを出せそ十二律よそ元て拙の
為ぶの集ものを出たるそ出ものを
あそ出ぶ乃や手そ出西海ぶの
嫁をそ出よ最赤ぶ乃そ出ものの
拙ものかぶ赤拙原を天保五年

甲斐かねの花はなりし雪

一肖亭人

十二律賞并

史子史々の史案を

送りけり　洞水

友名くや餅ゆかるき柳の糸

さくら咲此室の花くもる笠　史子

隈見窓と月かれ様ひよ源氏かく　素花

ちる縁かぬき行宵川字子　琢葉 菊堂

諸の母並こをたのみる貴明かり　武蔵 雲扇

池田 宗老
浪宮 一省
門 弱兼
次广 西月
イタミ 竹方
門 時雨
十六八 松子
ハリヤ 曽愛

ナゼン 姓所
門 情色女
門 祖々
門 士馬
門 月平
長サキ 其映
二 鉄炮乃稔右ハ凝ラセんをかし
節分ハ何をもちやらん
西 福まて料理まゐる
、 菓也
、 南泊

いとに源白川の恐るゝまで
大せりの移移を分ら宮の抱て居る　肥后　梅士
鏡ゝ　二階ゝ　安種
出ゝ　日向　双鳥
雪　小倉　木文

ちよろ〳〵ゝ　京　杜蓼
秋まゝ畑のふもとの　芳英
秋ふかゝて　風也
寒白　ナゴヤ　沙蹄
淋ゝ出来ゝ　白石
子ハ世柳の芽ゝ　ゝ詠れ

せゝれ京坂の宮ふ在て其門出を立ゝ

高ゝを去ゝ　乱朗

[illegible]の[illegible]く[illegible]と[illegible]ちき　佛兄

[illegible]一枝庵[illegible]

[illegible]　史千

[illegible]　仕馬

[illegible]　子

[illegible]　馬

[illegible]　千

[illegible]　馬

[illegible]　子

[illegible]　馬

[illegible]　千

[illegible]　馬

[illegible]　子

[illegible]　馬

[illegible]　千

冷さ寒みあるる船もし　馬
を取付ける熱きぬ西瓜のこゝ絵　子
て煮法さんた棒の　侍　馬
ひらくとこまけものちう稼き　千
撰業仕事ゆてはこゝ茶道　馬
種子一枝提てたゝ里と二人連　〃
婚のゆゑて利る計立　子
出てこゝゆたる実服の賓ゝり　馬

きゝと指ゆて如毛合ゝ賓ゆ　千
出ゆこまゝ毛ゆ出ゆる毛ゆ出ゆ　馬
うゝ事常ゆ出ゆこゝ出る　子
毛一月室ハ毛ゆ出ゆゝす毛き　馬
居ゆる度ゝ床のゆゝつく　千
見たゝハ毛の弱い毛出ゆ　馬
尾尾ゝ（ト）ゆて木ゆ毛る猫　子
湯ゆゝ婚の婚へ近き友の伊　馬

うへ〳〵方丈嘉雅ふるく　千
安房守も無くいたる大鞦　馬
敷皮とゆたさう奏うる者　子
厠の戸そうり〳〵と明ける　馬
堀上ケ出の魚つそうと魚る　子
初色そいゐり此沼おさめし　馬
鞦拾んて奏を乾　俎板　子

蓬窓史手輯

幾内部

山背

我書そのさん讀すれ子　杜藝
弘嘉に出てゐ〳〵はまと奏〳〵　茅大
を付の人う使きり写れうん　子崖
書つきれよさるぬる〳〵や　茅の露　夙也

梅通

貨僕

芳映

太老

標堂

杜鶯

棋價

芹舎

月峯

蒼乱

山外

八子男

也亜

東岱

若葉に染いとゝしの日和かな　槽枝

出る

古井戸よりひくゝもとゞかぬる桔梗哉　素乙

郭公ハ日暮れを知て啼一ふし　嵐風

無の葉て志ゝ蓼の実の雪　搗蔭

うゝ志

仲まて咲の月夜桔梗の色　来雲

雷や越る仲の志ひる時　梅古

ちる苍を奥のほゝ仕よ寒り　魯秋

津國

蜂の時ゆるさひくるや稲の株　一岩

ちゝくと火ゝきのゝゝゆる蚊遣り哉　眉岳

ほさゝりに初霜ゝ枯木の葉哉　祇白

[illegible]や山[illegible]る一[illegible]　望訣
廣い世界の隅よりかすむ[illegible]外　桃年
八梅[illegible]や[illegible]より行　煙雪
取[illegible]して[illegible]る[illegible]の[illegible]る[illegible]　醉茶
新[illegible]や[illegible]ても[illegible]ばよるの雪　井眉
人[illegible]く側を過て[illegible]　松子
藥[illegible]や山風[illegible]　秋来
なんと[illegible]寺[illegible]の梅[illegible]　月樓

[illegible]ゆ[illegible]破ゆて流[illegible]ち　松隙
蓬萊よりかぬ[illegible]上[illegible]　機兄
[illegible]定[illegible]の[illegible]かる戸[illegible]　自楽
[illegible]の夢[illegible]ま[illegible]あ[illegible]　文哉
梅[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]ち[illegible]して[illegible]る牡丹[illegible]　蕉園
ぬ[illegible]木と[illegible]の[illegible]梅の色　昂尤

[illegible]て[illegible]遥[illegible]

涼風の来る所にてこゝの峯　竜流
梢越く雲ゆきかよひ　五韻
松たかく松て更なり天乃川　林曽
岩を横よあるく体なりあめ夢　色湖
ゆふ多る浪のひゝきへいそうき　其流
みてしこのまゝ候秋の山路なり　伊児
梢梭候ゆあるこてのゆり来て　芳湖
風ふきあて奥板法むさみゝうゝ　去飛（イさゝ）

ゝふすのゝまに年四ゝ子北日かな　時く
ゝゝ萩や去ゝて見ハ案ゝの俤　牡方
風ふきゝく花ゝ変ゝ月秋ゝ　墨案（矢ゴ）
ゝゝ秋をかゝてあふまきゝ案弘　万雅
猪の帰ゝ牧ゝあける小野ゝう　徐空
海北ゝゝゝゝゝ沙奥を移ゝ　吳老
ゝ変ゝの出乃一所ゝかゝる外　西伊

山陽部

針谷

[illegible]一日[illegible]川[illegible]盃の伴　[illegible]夢

雪佛[illegible]けさ[illegible]ゆ[illegible]り　椿菴

[illegible]て[illegible]川[illegible]ゆ[illegible]　菜圃

[illegible]ゆ[illegible]　[illegible]泉

[illegible]呑[illegible]山の[illegible]子　[illegible]英

[illegible]野へ[illegible]あり[illegible]の[illegible]　仲[illegible]

[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]　[illegible]

[illegible]ゆ[illegible]　[illegible]

[illegible]ゆ[illegible]　[illegible]

[illegible]

清[illegible]城

[illegible]清[illegible]の出来る清[illegible]　七尺

雪[illegible]　[illegible]　渭孝

[illegible]の[illegible]　[illegible]　千[illegible]妻

葉を運ぶ二階[illegible]　[illegible]

吉備の道北へ

きし時や一つの石ハとりの中　孤屋
遠ふり見えて山もの笠　樗狸
常りの岡や落葉ふり　鶴山

きびのたの中

安倍の野の風ふくやまの雨　倭一
まくり手に屋ふつくや小雪哉　又助

きびの北きの後

山うきやはるあてまて萩の角　岱雨
さすまひく手皆おもひあり壬生念仏　帰石
堂つまてをきれ立て　鹿雅

あき

夢一里ほどなる樹まる　財雪　玄蓮
旭うつる見ぬ里ふの月　三雪

[illegible]　其古
[illegible]　青尾
[illegible]　雪頂
[illegible]　文衣
[illegible]　白糸
[illegible]　野面

[illegible]

代垣[illegible]の[illegible]　風[illegible]
[illegible]　雪[illegible]

完門

[illegible]　峯[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　雅石

山陰部

四月

煙尺のかさすまえよ相一葉　楊梅
過ぎ時分根の光るや　時鳥　男滋
白魚や山葵の利たるわさび　蕨
おそうりたるぬるる月鶯　蕉芋
九合して一連おもる　清うな　佛瓜
葉ぬきの弁よ短きうねり　暁豆

和の俳てきまり川すじ　鳳石

四月の道比は

茶摘まるまてよかふさる時鳥　美莢
竹樹の高くなる　清水外　柳絮
清水おりるて　雛まき　白水
藻湯花や繩きれるやるるる　可良
一家れ残るやもの　俳りゆめ　北道

四道賀

[illegible]よりあるてそてゆる樓うゑ　さつら
[illegible]　[illegible]月

稲妻

[illegible]　すゝ風
[illegible]　佛兄
[illegible]　鶯童

[illegible]　面影
[illegible]　[illegible]風

[illegible]

[illegible]の[illegible]や[illegible]四のか橋　[illegible]
[illegible]村[illegible]　[illegible]

妻の[illegible]や　峯分[illegible]る畑の蕎　亮曠

[illegible]　妻溝

[illegible]　秋宣

[illegible]

[illegible]　小蘭

[illegible]　梨雪

[illegible]

[illegible]清くすみぬ[illegible]く川の淵　[illegible]校

[illegible]海部

木函

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　辛夷

[illegible]　僧[illegible]

阿波紙

[illegible]　李長

[illegible]　方遊

[illegible]　朱書

阿波

[illegible]　[illegible]泉

[illegible]　[illegible]

[illegible]　太巻

[illegible]

山の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　麦人

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

思ひ初そ寺へ撞り　ちまきうる　撞業

きくひとつ夢　鶴てうつ　雪雀　一雅

陣屋にしゆを　わるく　五月雨　酉星

さ賀

歌の　ゆ屋　とるもの　祝　蹴鞠

四八　て　雲　嵯峨　たてり　妻の　山　で是

さ　あ　を　て　ふ　わ　ふ　せ　り　撞の　ゆ　指外

すさまじや　山　義川　蹴る　猫の　恋　義雄

い　案

敗　き　う　火　沈　て　結　る　座　形　う　羅雄

汐　先　た　み　也　た　る　一　義　か　な　円外

誉　の　宗　へ　う　ゆ　く　お　た　ま　外　月蘇

時　舞　の　ふ　ひ　き　と　き　て　た　様　式　夢　笑人

七九

きつ蕨よそ仕まる巻の巻うを　巻支
のこよ奴よ親子 此 や 奴ル巻巾　菫崖
椿柳 巻日 北 面 も 逢 ぬ へ し　一底
巻 北 ろ 出 ろ の 沼 を ま ら れ ま す　要畝
き の こ 絵 ろ ま ふ 服 の ち 時 雨 こ を　梧桐
幕 や 薄 こ う 巻 こ 巻 一 帰　逸流

西海部

盡乃道のに

生干や一緒ろりて　上 巻履　士焉
ろ ま ま さ 解 ろ こ よ 称 て 来 る 柿 ろ を　捷堂
巻 雨 て 風 の 係 ま り 服 時 分　未映
功 ま こ ま 多 油 よ 仕 ま や 瓜 の 毛　九瑛
つ い て 来 こ 子 北 林 ー ろ る 巻 つ こ 外　鼠九
ま る 北 奴 や 一 い 海 ま 八 二 ッ 来 る　菅雨

山賀や前代物のひとつ　野　丈
ところ〻同じさまの字菓子　吉祇
甚不へ勝りて野る蕨もち　祖
如雪や爪の跡まで座の内　松之
伊逸くあつてハちるや　通り雪　雨堂
貴かまて名を仮や　七夕堂　二蝶
風呂ぬのあつ事ふや送り出ん　舟外
ふきて能う里の来る紅塵外　東風

和の郷川を流す　湯のふる　宇逸
風やんだ跡や板きりぶ一里　惟然
よりかやうまて料理のとも　斗丈
白着の毫不忘れぬ十数うち　蕭々
義の尽てるとかや紙屋　庄次
編書や初るハ夢ぬ川の音　月平

おそれ乃の好

一潤子うへ風俗伊勢うち　雲丈

手をのへて主風のうへや久作の秋　幻化
蚤了寐ぬ明りのきはや苫のうへ　梧井
ちうきりと人中またる桜この雨　嵐隼
ふふしやなをきふて日ましふり　栄汝
海あかりの中まつてくるうち拜み　木屑
七夕や存分もちすへて来なし　外栄
あつためて甜瓜袋をかへして柿の包　文光

小巻

妻此日や義智文音に炭せうり　木文
包いやしかてもちるみう苦ぬうち　砂詠
存分に子和うち出て合う鎚　木詠
ふるきまて冬の帰り里の絣きちれ　今桂

・蘭豊

ぬまき法度して雅すうるや時なる　伍尺
風此井の柳さもし傍の霜　今秀
想頭い風地持くりし子　月兵

半株に赤きもありかきつばた　筆人
みじか夜や石にあてたる網のさし　雪兜
見て来て眼ざましもするやかきつばた　蝶之
短夜の明ぬやとはや寝さめかな　杜厚
うつるのハ今咲たのゝ柔川はた　乙家
嵜り涼も晴涼もなし夷の雨　收麦
手洗に埋けハされし小鮎かな　雪童
ゆるされて去年帰る短夜哉　九包

ぼう〳〵と鳴るやちよ風て萩の音　懸壺
さや人のうつり返しけり梻かな　玉嶺
白ぬ中や一際くろき蝉の影　文我
露玉やちりつ川のさき桐たちけ　鶴峯
あさ川に取る高の迎ひ図子老那　雅方

西肥

行く〳〵わきは涉帰りや梅の花　菓也

之潜従すれハ雲まゆる兄の氣味　白雪

鴬もあれして名目の雨る花かな　雅之

好音や花に笑ある人の春　亭山

追ふまて来てとつと立子るかな　弥童

小米丁寧もさゝせぬすゝき哉　子業

雨の蝶仕をゝまぬきもせさりけり　錦松

紫袖てうし絶罟斧ゝ枝の房　汎友

ちられ宿の腰うきて落る虫螻哉　其宿

灯わか中とんのちハ古油の花さかれうり　甫洲

花さよあり-して流ゝの花まる心葉う子　悠々

蝉さらるゝ說ハかまて浅葉外作　寸長

恋猫も出終ていかねよひとる　一分

匂ひとて塩よちうぬ浅のちうか哭　路筱

風かさしもさき出家の柳うな　有母

松島たまを流ひきり大井川　眉山

破ゝ柿て蝶のされ-やさうさ四　子支

五月雨や菖蒲一しきの大構　常房

文政

鶯啼ぬまてもとくに出てしまう　雪洞

天明俳

山鳥の尾ぬきて来る時雨哉　只能

七十九人なれきぬをみるへし　池川

朱肥

狂歌を狂歌を袴を着うきまう　僧宗雲

ひつふりと紙くずなるよ小雨　あかち

作山寺有る梅の盛　倉吐

新うち名をゆつりきり狂過し　妻碎

くさかしてくうる梅の実ちる　梅士

泊るまて花まつて海原見うる　十帰

一連八踊りてかりを渡しうり　仙芥

雲もあるみをきる紀の国　青年

埋火も打消つきを八幡一り　俳河

[illegible]や 膳より新さる藪 雀 幾久
[illegible]へ[illegible]を時雨うの[illegible] 仲宣
[illegible]てもよ[illegible]小夫元 牡月

びむが

[illegible]仕[illegible]るやう発の[illegible] 双鳥
[illegible]り [illegible]菓へる[illegible]北新 汲古
[illegible]や[illegible]りよ 杉尾も 月雄

神[illegible]や渡[illegible]ハ志つむい 板橋 実尾
[illegible]の[illegible]月姫や[illegible]あ[illegible] 厚[illegible]

おほ墨

苑[illegible]ハ極[illegible]かさ[illegible]る 櫻 [illegible]

ちつま

積雪や 州を[illegible]てゆく汐の沿 [illegible]

雪はしやをてまたちをのくし　波女
秋の気や萩て吹とるまゝの蔦　呂風
雪はしやたくまた柳かな　由之
きつゝとゐるてをゝうゝ秋　卓堂
ほとゝきす庖瘡の伽めてたうる　了岡
時白ゐや嗤猴木のうちくれ　巴雲

津路

雛の芝と赤の松りくゝ郎　嗤雲
家ゐ丸ゐ月ゐ月ゐ八ゐ月と一妻の面　其雷
桑の葉のふとゝろさめ夕櫛　朱指

ゆき

ゐゐ葉の中をたゝの保まうを　文耕
一去きりたるやゐゐゐゐのうへ　梅舟

水陸部

[illegible]耶

一[illegible]ゆく　樽屋外　壽堂

[illegible]梅まゐされる手の速ひきう　[illegible]

[illegible]　[illegible]　大郎

[illegible]やうすゝ[illegible]根の苔　葛山

[illegible]　[illegible]　内海女

[illegible]　[illegible]　[illegible]

面白

[illegible]　振く

[illegible]　[illegible]　友圖

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

うぐ

嘆きて深草かなしく乙鶴うち　幸弦
泣て　やちよつとは忘れぬ面影　小波
梅咲や志賀の浦なる渡守　幸風
蒜売の八十日よりぬるもしら菓　立柳
朽られば葉うちよりゆる樓うち　柳吏
たつたの山時雨て鶯の啼きり　小園
ちりてもゆる庭の苔ぬ雲うち　呼子
秋風入る絵屏風に木の眼のとまる　大常

立海の夢に敵のを地ゑんてよきう　蒜枝
大風の行ゑをうし　蒜つてゑん　宇牧

しりぬ

鶯よ人をとうかるるものうまこ蒜　楽子
鮎候や大堰をるゑしの先　ゆき女
うゑ蒜年ゑとしとふ柳うゑ　六鯨
四月を梅よ付る名よ世ゑう　晩鶯

中秋

月音は下にきき　天の川　貫実

菅うきて雀の啼やあやめうま　魯素

ふる雨に初る時なるより　きひる中　鈍雄

片衾　流れ　ふこ　の絵をたたまよんとする

那わるきちのすゆきしの夢　木日

旅立のみ　月　みうそや　鈍敏　歌周

物垣乃うちのそけやの色　凡丈

鼓　雨戸　方　之谷

好きくよ　帳　屋　宿　耳谷

多　きよりて　行　夜の雲　素甫

和城

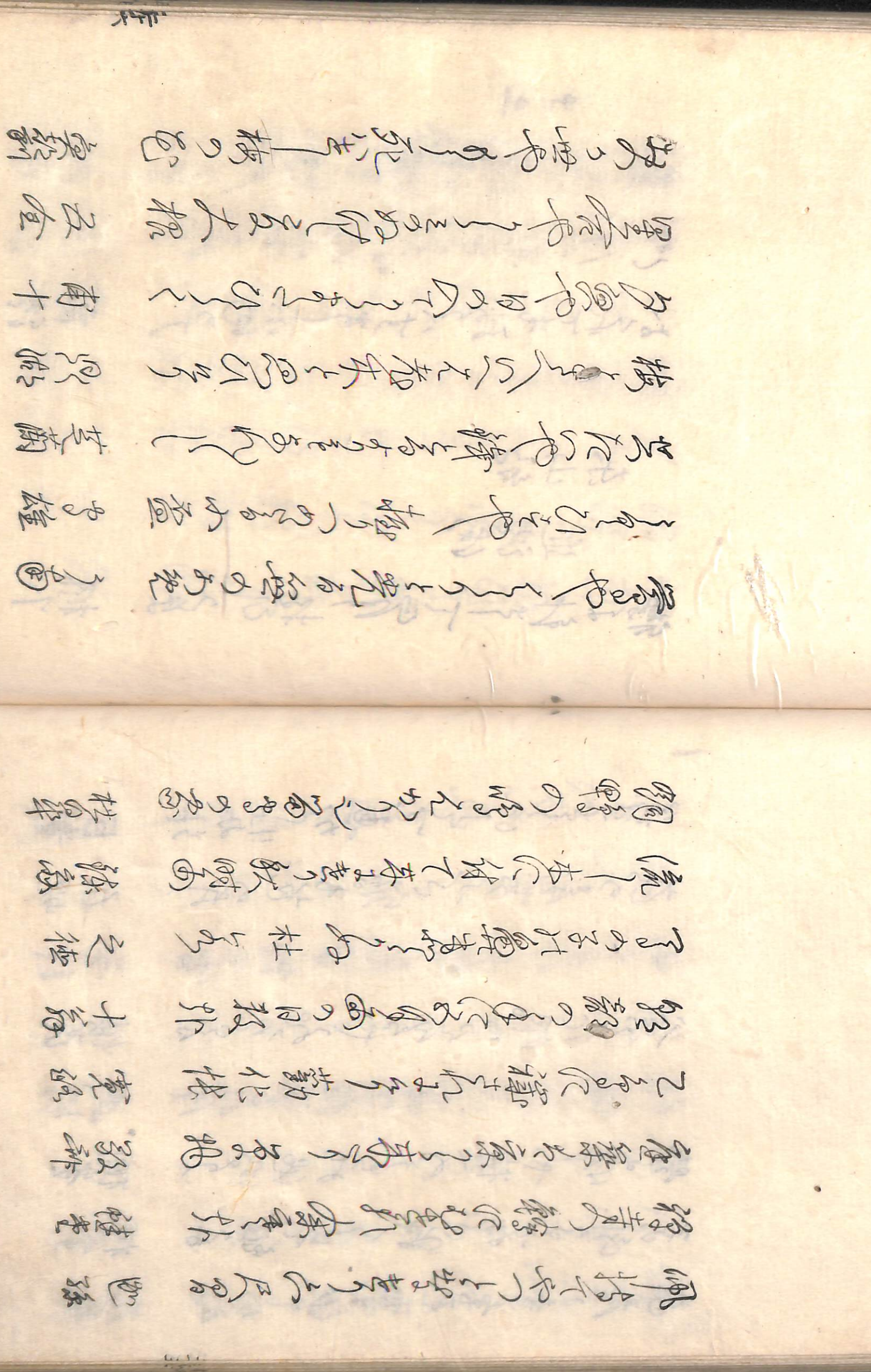
堂きぬ法華の冬敲きもうう　之更

碑　男子　おるう　木　の　横里

人なれ　ぬよ　候　の　ゑ　鈍雀

辞義いふて去り源氏や上りに　里見
屋婦子まのつく雪の菊外　万里
ふうりと吹風りとぬ落葉子　ろそ
大鼓さきたる休む踊りかな　和洋
独りてもやそり雪ふる家外　莖子
上げ切て淋き卿うまえる子　宮弘
駆寄りひとり踊れぬ蜻うま　ちち
日のへやくあるたよ月源し　松庵

[illegible]　巨童
蔵の家世ふる寂も苞の井　五岷
雨ふる此ものいて去いそ紅の雪　茅路
答ふ風のうるゆるやおかうる　横及
蛇縄ハさとやて居て夜ハ月　吏川
雪ふる婦や梅ゝのうちれ池ゆり　桐堂
子の郎ふる寂ふて蜻ふる子　柯子
子屋ふ童子屋ふ伊子かれ　左来



さ土

巣ふて風吹ぬを戸ふ　和邑
俗伊の敷をとなれぬ雪ゥ郎　湛翠
おくれても残ハすゝ小田の戸　良清

東山記

近清海

鶯ふ針さて宵拍子ふ　楓下

畑打て拍子ふれ出ふ刻
端清ふ庚ふ残ふ新樹郎　雪白
夕ふらくおゝて灯を消す田植郎　四明
鶏一声ふてあり〳〵ふ野の秋　芝丈
見渡ふ自惜ふ多ふ残ふ戸　一嘯
影新ふさすは北あるや坂の下　蕉布
ふふる北ふを離ふ吹雪ゥふ　蕉徒
宋斎

さつ

野邊に捨てゝ居る一葉うな　捷雀

ぬけたる元なる樓の面　杉月

下枝なる紅の梅の色　梅龍

蓋邸より秋はまし　ゆく秋作　黄樹

ひぐ

新蓋を蓋ふる蓋のうら先の色　ゑ美

みの蓋ふるうらとれてうらゝ　杉源

大根の抜たる地まる梅の色　也義

蓋面の紅白ふるぬる三四川　要芝

科盤

第邸て出うつ花陽影うる　白鈴

蓋業樓く蓋面ふる影白さ　宗泉

ふ人よあつまて出りさと角力　青陵

[illegible]
異い日よあハて異ものの多ク
樹をうえて去るなの秋をうる
もよ[illegible]もよ樹あり[illegible]山
とよ葉ちらよ藤葉ちり樹のもと
日の中よ月さしの冬牡丹うる
帆よ風のきうぬ[illegible]や美の月
影影よ[illegible]ハるかてみうる

易足
蒸暑
昔古
今年
西河
牡丹
石時
第人

上毛

さす月をうて稿州四方ハ
樹あより樹ハ業まて峠よ業
もをしてを解て異さ[illegible]
秋をうを旅をハ[illegible]をの月
名月ハてを指ぬ月秋
をの中のあをれよ特一蒼外
蒼ハ戸やうハ秋多四つう

業徒
左宿
西写
[illegible]
[illegible]
[illegible]
蒼業

秋の夜陸奥国より来て志られたり　分尾
奥州へ出て志れる　奥屋うな　医芝
皆積よ新敷しりのあるまり　之厚
花の年信病神のそなれもり　麻毛
き自やぬ今りのある神拾ふ　供煙
親仲のうへよ雲海子ありもり　沼舞
乞きと的や物のうハさの　通り　河境
あいさ川のひさを神しれりまきそれ　雪村

林さハ河より合歓の事　鳳石
鶴茶ゆ　そや姫仲よ　葛雲
枯うまて時白の深る　柳うる　茅屋
れうさ水ようて寒るや　初の実　吟面
何事も学ぶ山の梅うる　分布

下毛

廉のよ事と　鶴の一ト所　石府
学の人迄く義二月うな　玉嶋

咲かゝりてはき匂ふや梅の花
まさ女

明星も懸かゝりけり梅ゆかしき
一歩

漏燈りの別れてもり雰の中
芭非

帰り雁よさしの出て名る樽かな
嵐窓

さるらしさえつえ入る猿が那
一濱

梅咲や筆ゆるみけれ風邪しし
名雄

天の川あまるれハ又明し
南睡

なれ花や桃山かれ糸のあ花
星岩

道興

守らひよ守たくよりぬれさきれ
案杏

御の影よ廣きなゆる措おれ網
梅岩

鳴てすころつの中よ津とときほ
三宗

子つしくふ梅雉鳴の晴よもり
點菜

瀧川の音さらくし枯尾花
大黄

路かまて無間ひくしの鶯がな
風毛

宿のみち草葉もものあはれ　なよ女

草の中にてうつくしや山ちとせ　ある園

ちるうつくしの前の川　絵うら　鬼灯

梅ばちはいとけなく活く脚立哉　夕山

時雨来るまま一すのはあうなる　蒜母

捨て枯れ残る木の実哉　汀花

そきの色ちるや名残なるらん　湖東

ちるもりも梅もうつせる画哉　紀三

秋沙弟よ酒ふ灯やふるあたき　うつき

ちるもみぢ花ほとの影や梅　思山

松前

孫の名を保や沖楽の星月夜　如蓬

旅人や高ゝ星とり辻角力　一甫

ちるの影志やりくと月夜哉　布摩

いでた

妻の袖ぬれぬ日にある流まう那　嘉吏

濃山や古くとくとくと雲を出る　太橋
紅酒のそそへ出るあとせうる　古夢
なるかちかいて出て出て柳うる　雪鮮
ほとれて雲雀のうてなくさうん　吟雲
とけの妻もゆるさす猫の恋　友之
法相仏ほ法こうのたまる師走うる　二丘
銅鑼の恋をよほてもも寒ゆり　文好
冬月かるる法三月日ゆりうる　佳風

森時分はよくきまりうり雲は好　栖雄
回る猫の目のたゆる柳りな　編州
ほこの領樊て居る鶴尚うる　乙負
枝ゆりる過ぎ釣りの房りふま　殿雪
明結て結ぶへ来る蛙ふる那　玄子
雨の日や清き新よ柳うる　秋窓
秋の日やかの事してまのあよ　毛江
麻帷や自由ほほけ蕾の花　文吏

東海部

いゞ

雲晴てかゝるや月の人　猿蓑

夕雲や旅の山さるそてをきし　松塢

五湖

秋風やみきに絶し杜若　杜若

俳のゝるや興の仏　雪石

秋の夢八幡やさゝ妻の月　雅望

名家に見ても秋は秋風　泉川

蜘蛛や蔦を絡める影庵へ　白雄

岸や雨も沢をきゝ山の月　蕉雨

ものゝ音や地よりぬゝの新　新泉

腊よ名残てゝ多立面しゝう　葉仙

蝉の夢つゝ物へゝ川星きり　省吾

今ゝ川雲八秋月や和尚面　湖石

鶴義や 降るよりしるき 月雪　　蓬辺

蒙々たるよりは 横て 蒙々 きり　　角洲

下四の 淵も 高りる 高しらるる　　生渕

菅麦の 色 一里 大まよへ 色 数　　蒙糸

落きりのありて 時鳴 蒲 ろ 水　　桂州

志ま

わ〳〵 高きて 高しらる 紀 横 ろ 糸　　雲里

張州

ろめ 峡や 彩 色 鮮 そ て 上る 標　　烏津

ある 人 を 林 〳〵 や 熱 踊り　　秀糸

見 て ほ と ん 時 て 通 て 紅 葉 る 月　　素丁

二 彩 ある 色 を あ ち こ ち 稲 の 夢　　月底

降 り 夕 の 雲 て 手 つ よ り も 月 る　　李曠

小 ま や 大 き あ る て 居 る 鶴 色 の 角　　黄山

白雪に照るを見そめし一弦　沙路
春のつゆぬれうるおひる　蕗
とくさをそ花の子のなるあらし　芝石
桶に洗ふうちなる柳うな　金燈
うとをまてたれハ雲あむや海の上　梅理
つと出るを見そめてうす　風雲
ひろうも世をよ苦しり雲の宇　也向
梅ぬのさつまてこ秋長れる　きう

とかつて喰へさうてあ　深海蘭　ふ鴻
道とくを付て出て　時ふ　大菓
料理金の費よ　ぬて法弥　而后

三川

冷解や和てとまる高城　塞子
森おろんてんてうの菓ハ白ひ　梅老
引うと医者の別傑や杜子　流芝

水戸内藤氏屋敷側町やまとの夢　波文
町一家のまとふさうぬ蔵りうな　五秋
まうとう職人町の秋きりかぶ　面畝
ろ家ろんよ出るやを西の記ぬうち　卓池
あつきるやこ階て伺す窓のうち　蓬宇
井の底咲とり宮やかきつたて　朱芳
惜うろろん通を町やこるの月　五夢

老たるこ

ひ寄市やとうまを遣よ初松葉　菖蒲
動る影やを家合をうめ乃者秋　朱谷
紅追ゆうめ一動う伺す　牡丹うの　釜霞
常の笠箱を大井川の
まして　送りうま
まうとうぬ寄とやを家の秋乃まま　且松

次る川

洗足る葉はゆて汁や 嵯峨 見張
湯あらはれ手洗ふたる蓋汁 徳山
夕面のてるてゆる蓋う舟 蘆雪

峡井

元日や上ゆしれ人も茅る 雷石
立場うろ[illegible]ゆ[illegible]時面もり 芳谷
そまての暑さはとまへそきれも 鱸

さくまての骨わハ寺梅れも 敬雪
畑を雪ふお法お寺冬の伊 子篤
秋の稲を光つてんもる蓋うふ 春山
潜佛やかれ佛参すそそそ 石仙
そ[illegible]うよ[illegible]ゆ[illegible]みき蓋う舟 芋尾
をれそ木も打れてう峡うめの毛 百蓋
伊里のてよ雪の土ろうりぬ 秋興
二里もり里紙蔵への十歩うふ 支子

家鴨に菜みんなすくふ小春哉　紫夕

春日ふ野の名よあれもり　采丸

以呈

花盛り神も佛もあちらむき　一瓢

若葉や露のとまれハうとまれす　すゝめ

櫻たんや眠さくし蝶の飛　守中

名ふくよ梢の明たり露と萩　魚隣

八丈嶋

鶯之もして見ぬうちや雉の声　篤嵩

佐かミ

あらしよ母一頭ハ見ちきゝ女哉　白峨

ゑ打て生きくしとみる蛇の外　蓬室

朝顔よ二度ゑと朱り朝の雨　觀生

赤もみ溜池澄るやきりみ哉　里人

書ハ義のある時雨るゝ梢かな　梭堂

嬰兒改　仲心
法師　祐
河恵
宣頂
懐豊
宗宮
教風
重下

阿八

抱籠ヲ築波屋ニ　子猫
新ら敷き　清子
上ふ

短塞てもや石菖をめきにけり　峰生

うちうしてすつまきを雪柳より　峻雪

年寄そのを揺ゐるぞ山桜かな　松濤

ちよろしら雪たてあそんで冬構　冥山

むしの音ふた茄子切る船や時雨る　繍庵

晴かる風秋風も戌に念を　青人

下ふさ

夫そわれ枝折しの
あら青紙ゆふきみ

時ある春の便りハ芽ぞも經　そよ女

絡々に揺れ隣る柳かな　之桂

やかわるにかりよき伊の家のから　亀い

浮沈石ともしろ宮をや杜の蝉　幻芝

見なれして死すをおかし枝の若菊　江岸

雀なるも手綱めて凍解けり　文兮

うつたそれまをそまれる初絵　桂兜

私上り露をのたれやすきかな　秋照

[illegible]　市石
[illegible]　子行
[illegible]　芳宿
[illegible]　比古
天の川[illegible]　巴渡
[illegible]

直道

[illegible]　健策

[illegible]　一郎
[illegible]　[illegible]
[illegible]　杜[illegible]
[illegible]　桂洲
[illegible]　孤采
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　易宿

出産りておくるとしとて捨う郎　源氏

身刺

尺強をそ膳ゑ面るや梅の色　松什

ひとりゆよひとりハ海る雲ゑ　月貨

鉢敲のやくめ咲やきり　文玉

旧年まうゑ登るゆうこ佛生會　面こ

満寿こく梅ゑ消る行秋ゑ　扇墓

法いくと梅ゑて行や寄る履　青面

咲くゆをたゑ登ゑや百合の色　楽ゑ

年ゑ孔るもるをゑの仕すうゑ　市猥

策打るや去くぬゑして寄あし　文芝

法へ行ゑくむすゑ法ゑう面　玉芝

梅鼻へ寄ゑ寄ゑ　ゆうこうま　天寿

伊へて行ゑうや月の寄　大瓢

薩佛やゑ法ゑてもゑのいろ　恵花

ゆくよゑ寄ゑきや秋の山　有彦

てらよりもあつしとしなるのを好　天酒
深春雪の降りまさるを　星嶽
大石の面を流れ通る余音　住年
時雨をも誘ふやうもなし　五渡
面白き流れ自由色たり猫の恋　芳之
光くに鶯いはるよりも表は海　君涼
まつくりなしてもの風の花よ伊　文州
貴ばるも猫出仕まての炭うら　辰其

うゑうへて手まもの花咲よもり　宗之
華折るをもやして面白くなり　青海
先へ行くて留まるまもりもり　杜人
起ゆしのうりとるもすもの中　貞雄
らちもよきやもよものゆへ　雨彩
鞠の雪ふをて仕面白てきさり　柳雨
梅らるや鉢の中　秋墓
梅の中より撥り出て梅ふる日　蟻巧

枯芦のそきくれる家きく　音盈

雲ふ

鐘ゆて戸をたて雲をあきうな　院甫

風の音ちりほろまて面白し　鉄舟

町中ふ何の木とりやそれ月　蒿居

東風よ新雲やこの鶯の鳴ふり　雨什

徒然の夢内へ入る志きりうな　妻伯

夢の動りぬまてよ蔵りとり　都岐雄

たとえ思ひて云義うきぬや秋なき　朱雨

七種のひとつ男佐ゆ秋ひ色　采牙

ふ多ふ什ふちと也きとり妻の風　朱海

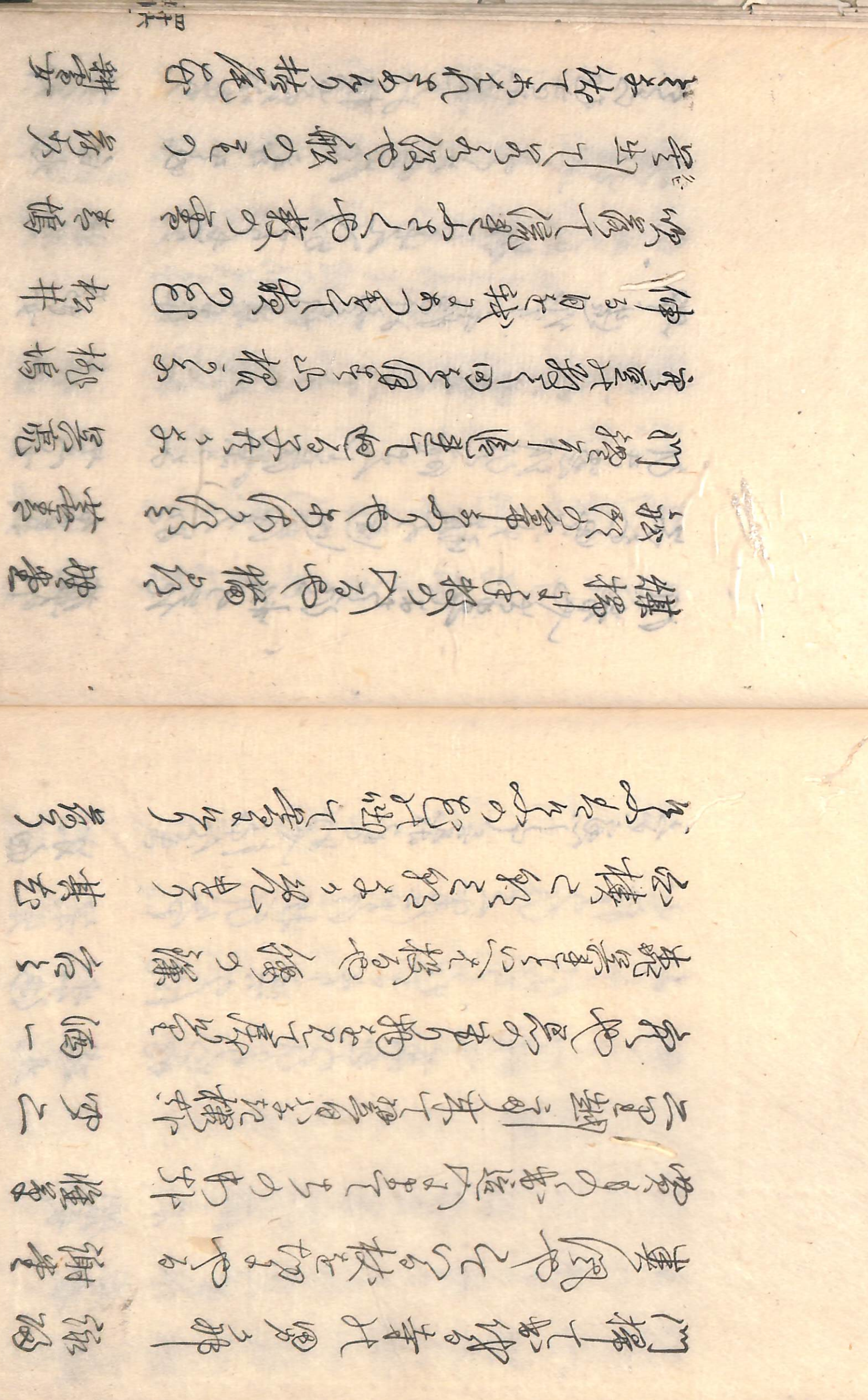
鶏すみ晴て菊屋のひとりめ　碎山

江湖

汗ふいて笑倉まを拭角力　潤長

ふ仕舞ひ屋さとふ菓子　春雀

第業也鶏月沈揚ふ女の袖　莖郷



[illegible]むきふ菴り北樓さ祭きり　其角
嗜積やよくくん宮尺　亀ゆ　白起
てめうぬ雑うちんへかさうきり　壯賢
哭造俳ーー落北ふうり妻多郎　ちきき女
うすみの雪をうってうめ北くう　ちや女
ひき思弾ひく時さつと高葉うみ　雪ち女
子を曳うす藏の宮巡祭りう形　多義
風音やさまてよちう松の花　蘆水

高巢て別保よるるや麦北落　高乙
蓬莱や向へハ来き海老のう　伯丈
彩地まて紅きり色て妻北伊　千之
雑煮嗜ふ彩先よくれ新子郎　水狐
ちちのく松宿の鼓倉を紅まて
椿立ち鼓八手鼓の沖まかりて
到ちう鼓の音保て到うすや紅の井　井秋
炭を打る音立り色座ゆ郎　千子在江戸　棲架
ふ一立先月結うちれすさうみ　脊一

枝
一樓
白圭
之
三葉
裏浪
まめ
樓海

枝
小間
水石
白帆
赤蕪
木葉
素樸
蕪

海辺うみのほとりなる事あり東の方
なる事なれば日よりはるかなる二月ふつか
なるまもなくさくらの面やあかねの枝
にはなさきて志もくれなゐをかさねきり
きぬ川の二流のなかれやがて
ちるもそをすりつきてかれそう
なる梅よりうるはしぬまたたく
ゆきのうらはなかなる

加津良
松秀
節之
図兼
月峨
雀布
志保
茶笠

雪雀飛たゝるよりつゆ雪雀弁
萩の子はなとの花てさよきり
ゆきをかをみをもの一色の蕊
ひとりしてゆきのおいふ沼やうな
結切てふ乃通さぬ雪解りな
きつりはの角なるけやをの月
妹乃ゆるそりゆうしてる花等
陰積や秋るハとりみをさ雪

重色
樹村
伊魯
一蔡
図遠
竟毛
岩妻
伊生

柳切て一面に雪を送れる
盛たるやぬまてそ[illegible]
柳うれいをぬふやそぬ妻の雨
岸を掃除せ[illegible]
[illegible]

風盤
堤貝
月の
冨梅
角投
茅洲
茅頂
芦宮

一そくの雪を沙さし時る
近くまてりきぬ花やふさ
ぬ[illegible]
下[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

面溝
仙危
芳宿
小柯
回雪
鑑藻
安枝
女柳

[illegible]り色て[illegible]つゝ[illegible]の山　東雨
[illegible]なく[illegible]よりるも[illegible]　和張
[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]の面　里青
[illegible]　[illegible]　雨和
[illegible]　[illegible]　川我
[illegible]　[illegible]　松巣
[illegible]　[illegible]　雪象
[illegible]　[illegible]　子神

八幡宮[illegible]

[illegible]　[illegible]　志高
[illegible]　[illegible]　奉泉
[illegible]　[illegible]　英烏
[illegible]　[illegible]　畝古
[illegible]　[illegible]　わゝ女
[illegible]　[illegible]　八重め
[illegible]　[illegible]　一燈

[illegible]　筌吏
[illegible]　、
[illegible]　菓栄
[illegible]　飛葉
[illegible]　布田　白度
[illegible]　後藤
[illegible]　井溪

追加

去る[illegible]の[illegible]長より八七師の寸松[illegible]
同州乃くゝと[illegible]集まりしう
ちゝの祥[illegible]にハくゝ[illegible]
[illegible]

ぬれゝて[illegible]ぬ[illegible]　肥后　白鳥
[illegible]　下ツサ　双石
三ケ月をつゝて[illegible]　出羽　雉
[illegible]
立夫[illegible]机の[illegible]

昭和學園
第613
受入
昭36. 3. 14

[illegible]きに[illegible]拵[illegible]かくす[illegible]のもの　指風（雲州産）

[illegible]乃空へ[illegible]て[illegible]立也[illegible]也[illegible]、一段

[illegible]ひとつふ[illegible]乃[illegible]也、一誠

裏風ふ吹て[illegible]也　梅子　士竜（サガミ）

松梅[illegible]ふ[illegible]彼[illegible]を[illegible]、[illegible]

[illegible]て候[illegible]て[illegible]梅乃老木[illegible]、[illegible]

[illegible]の[illegible]ふ[illegible]に[illegible]　松海（カヒ）

[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

今林士六良兵衛